South Pacific Studies Vol. 26, No.1, 2005

村長・地区長・人民代表選挙での庶民の関心：トンガ王国エウア島の事例から
Democracy: How Commoners Voted in ‘Eua Island, the Kingdom of Tonga

森本利恵
MORIMOTO Rie

総合研究大学院大学　文化科学研究科
〒565 - 8511 大阪府吹田市千里万博公園 10 番 1 号 国立民族博物館内
School of Cultural Studies, Graduate University for Advanced Studies, National Museum of Ethnology, 10-1 Senri Expo. Park, Suita, Osaka 565-8511 Japan

Abstract

This paper aims to examine the form of democracy practiced in Tongan society as evidenced by the way commoners voted in the 2001 elections in ‘Eua Island, the Kingdom of Tonga. The elections reveal what Tongan commoners think about democracy and what they seek for in elections. Three elections are described and examined in this study; namely, one for the Town Officer, one for the District Officer, and one for the People’s Representative, who is a member of the Tongan parliament. Each election is held once every three years.

The following are the results. Firstly, the result of the election for the People’s Representative in ‘Eua Island had religious significance. It was not truly democratic. The People’s Representative chosen by the commoners represents the commoners’ opinion of the king’s government. The candidates were all members of the Free Church (the former king’s church, but presently the church of those who are against the king). There was no candidate who belonged to the Free Wesleyan Church, the church of the present king. The Tongan democratic movement promotes only those leaders whose aim is to change the political system from a kingdom to a democratic society.

Secondly, the elections for the Town and District Officers represent the personal relationships between voters and the candidates. It favors those candidates who are related by kinship (based on the traditional extended family) and by religious party affiliation in the village community. It is clear that Tongan commoners do not vote according to their own free choice. It concludes that in ‘Eua Island, the kind of democracy that exists has been adapted by the commoners. It is not a western democracy whose purpose is to reflect the people’s right to choose their leaders freely.
Key words: commoner, election, democracy, Tonga

はじめに

トンガはポリネシアにあって現在も王政を保持する唯一の王国である。1875 年の憲法制定以降今日に至るまで、王自ら政治を行う王政とウェズリアン系キリスト教の宗教が政教一致する。そうしたトンガの国会は、王、各省大臣、知事、国会議員（貴族議員と人民代表議員）で構成される。貴族議員は貴族から、人民代表議員は庶民[1]から選出される。

受付 2005 年 4 月 18 日
受理 2005 年 8 月 31 日
E-mail: morimoto@idc.minpaku.ac.jp

従来、人類学の先行研究では1980年代から生起したトンガの民主化運動とその推進者である人民代表議員を選出する選挙が議論されてきた（Campbell 1992, 須藤 2000）。そこでは、庶民は王や貴族が行う国家運営に対して、切実な問題意識を抱いておらず、民主的な政治体制への変革を求める運動への参加を積極的に行わないと報告されている。その背景には、民主化を推進する人民代表議員に一票を投じても、当選後の人民代表議員による改革は何も実現できないという庶民の認識があるためで、この認識からくる倦怠感が影響しているといわれる（Campbell 1999, 須藤 2000）。

しかし、こうした議論の中心は、王国における民主主義の萌芽に着目するもので、より詳細な状況を知るには、背景にある村レベルでの庶民が置かれている状況と彼らの投票事情を考慮に入れる必要がある。そこで本稿の目的は、トンガ王国で３年毎に行われる３つの役職（村長、地区長、人民代表議員）の選出をめぐる立候補者と投票者の関係、各選挙の得票数に考察を加え、王国という階層社会における選挙を庶民がどのように捉え、何を求めて票を投じるかを比較・検討する。そして、トンガの離島にあたるエウア島民にとっての民主主義の価値観の介在の在り方を明らかにする。

方法論としては、文化人類学の調査方法である現地での参与観察とインタビューを用いた[2]。筆者は、調査地エウア島[3]の選挙監理委員長である政府代表（他島の知事にあたる）[4]に同行して、各選挙（村長・地区長・人民代表）の投票日に島内の全ての投票所を訪問した。選挙結果に関しては、即日開票の現場となった、エウア島の裁判所内にて開票現場に立ち会い聞き取り調査により記録した。人民代表選挙の公式な政府機関紙に発表された得票数は、開票現場での結果を政府代表が首都の総理府に電話連絡したものである。尚、村長・地区長選挙については、各候補者の得票数は新聞記事とならないため、本稿で提示したデータは、村落レベルの選挙記録を報告する貴重なデータになると考えられる。

トンガ王国における民主主義の介在

選挙は民主政治の根幹といわれる。民主政治にとって不可欠な条件のなかには、立候補の自由、選挙運動の自由、政治活動の自由、思想と言論の自由など基本的人権に関わる自由がなければならない。これらの自由が存在しなかったり、厳しく制限されているところでは民主政治が行われているとはいえない（森脇 1998）。しかし、このような民主政治の前提は、西欧の歴史的な経験から発生した運動の結果であって、それはいわゆる非西欧社会で近年みられるようになった民主化運動とは必ずしも同一ではない。このため、非西欧社会の民主化運動を議論する際には考慮を要する。これを現代の政治の分析でしばしば用いられているポピュリズム[5]の概念に照らし合わせると、現代世界でみられるのは、広い範囲にわたって存在している適応型の政治体系[6]で、形態の点では最も一枚岩的な体系でさえも、実践の点では分裂的で、「前」民主主義的なものであると指摘できる（ラクラウ 1985: p143）。

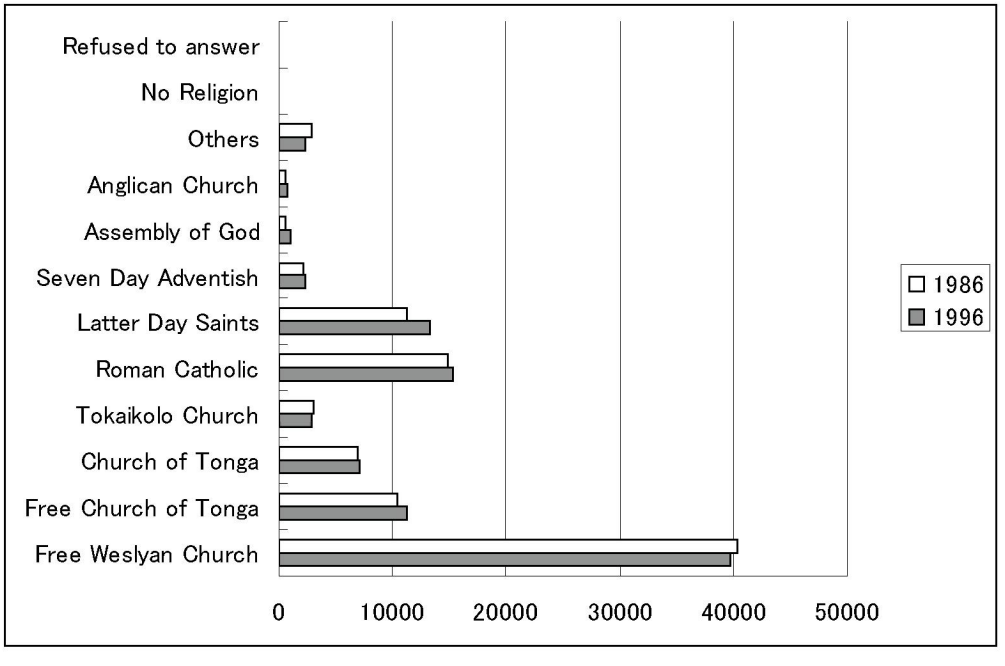
この指摘は、オセアニア地域の先行研究で1990年代に盛んに議論されてきた「歴史的もつれあい」（historical entanglement）の議論[7]に類似する。それは、それまでの

伝統社会は、植民地経験を経て、近代的なシステムを受容するが、それは外部から与えられたものや制度であって、その社会の内部から生じたものではないということである。従って、近代システムの定着は、一見すると西欧の概念の導入に見えるが、当該社会での受容の過程で独自の変容をとげて存在する。

トンガの民主化とキリスト教の関係

1875 年憲法の第６条では、「安息日はトンガにおいて永遠に神聖なもので、労働、娯楽、商売を安息日に行うことを法的に禁止する。またこの日に結ばれたいかなる合意や文書の作成は無効とし、政府はこれを保護しない」と規定された（Adsett 1989）。この第６条によって、現在も人々は教会に礼拝に出かけること以外の一切の活動を禁止されている。商店やタクシーの営業、娯楽やスポーツ、航空機の離発着までが禁止されている。トンガ人のほぼ 100 パーセントがキリスト教を信仰している。その大半を占めるのは、王の所属する自由ウェズリアン教会である（Fig. 1）。

Fig.1. The population of the religious party in Tonga.



(Tonga Government 1996. Census 1996)

Note: 1. “Tokaikolo Church” is a sect of “Free Weslyan Church”.
2. “Others” include “Constitution Free Church of Tonga” and “Bahai Church”.

この第６条をめぐる近年の議論には、保守的な動きと緩和的な動きがある。2001 年、日曜の航空機の離発着の許可をめぐる国会での論議は、その保守的な例で、民主化運動を先導する人民代表議員までもが、安息日の重要性を支持し、宗教的立場を優先させたために廃案となった。多くのトンガ人が、出稼ぎなどの外国での生活経験があるにもかかわらず、日曜に飛行機の離発着を認めないという立場をとったのである。こうしてみると、トンガの人民代表議員が進める民主化は、必ずしも西欧の概念に基づく民主主義の実行を求めている訳ではないといえる。また 2002 年、日曜に教会に礼拝に出かけた婦人のタクシーの利用は、婦人を乗せたタクシーの運転手の行為が安息日の労働に値すると話題になった。結局、運転手への警告とタクシー業界への注意勧告で終わった。

これに対して、パン屋と首都近郊のリゾート地の営業は、緩和的な動きの例である。日曜の午後のパン屋には、夕方の礼拝を終えた人々で行列ができるほど賑わう。また、日曜には海に入ることも禁止されているが、観光客に混ざってリゾート地で過ごす貴族の姿は、「海に入るのはやめなさい、テボロ（悪魔）が来て連れて行かれるから」と教会の日曜学校に向かう子供に言い聞かせる親のセリフとは、対照的な光景であることは間違いない。

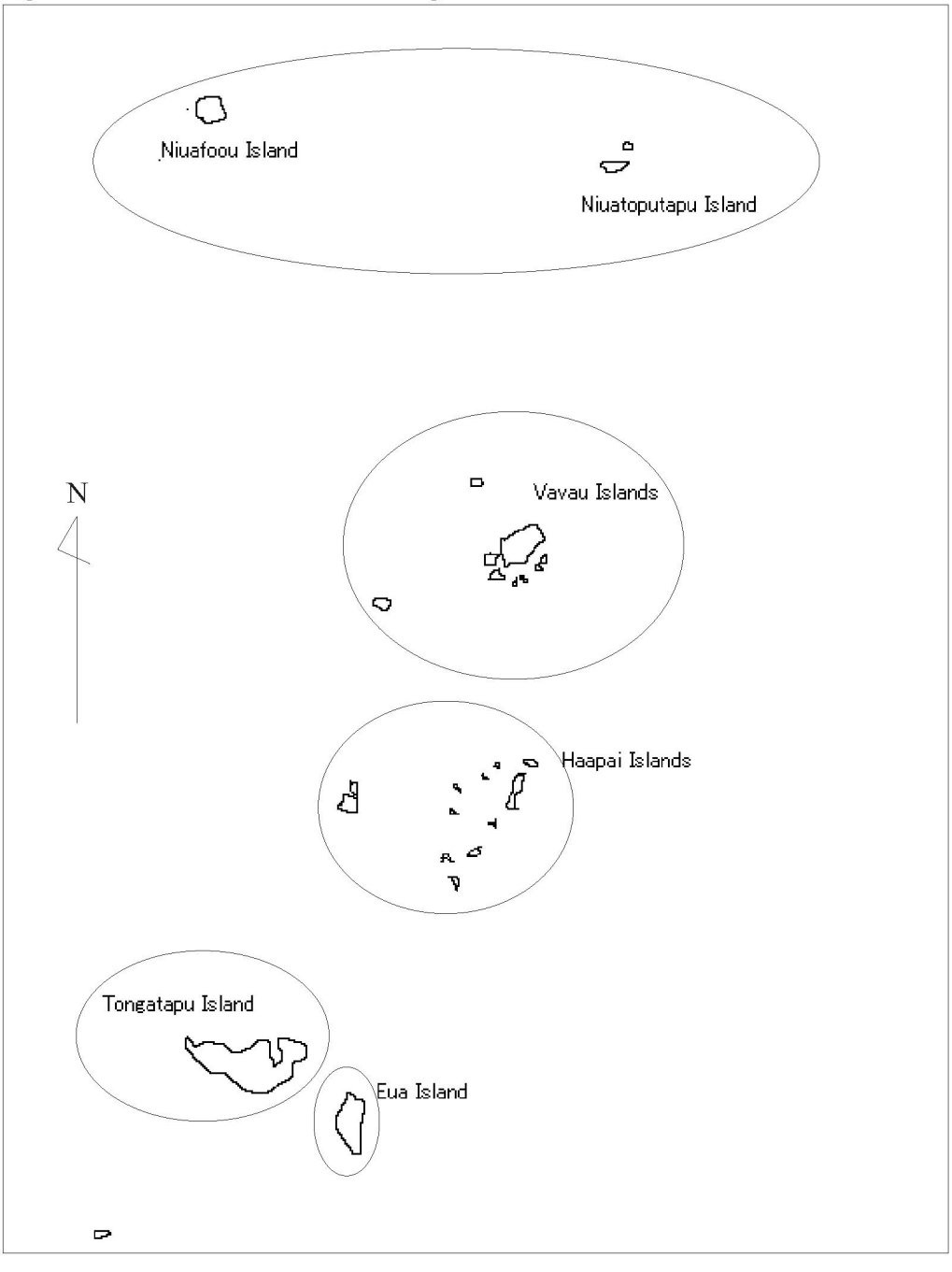
近代的政治システムと伝統的政治システムの並立

トンガ王国には、1875 年の憲法制定と王国の統一以降、王と政府によって導入された近代的な政治システム（政府代表、村長、地区長、人民代表議員）が存在する。1965 年まで首相が任命してきた地区長と村長の任期は３年で、現在は庶民（トゥア）の中から選挙で選ばれる。

無人島を除く多数の島嶼は行政上５つの諸島群に分けられ、それぞれに知事が置かれる（Fig. 2）。知事はトンガ政府の内閣を構成する。国会でこれら５つの行政区の代表を務めるのは、庶民を有権者とする一般選挙で選ばれた人民代表（ファカフォフォンガ・カカイ）と、貴族選挙で貴族から選出される貴族議員（ファカフォフォンガ・ホウエイキ）である。

こうした各島に配置された村長と地区長は、近代的な政治システムの象徴であるのに対して、各村にはその土地の伝統的なチーフとチーフの従者（トーキング・チーフ）の称号保持者が存在する。各タイトルの保有者は１名である。彼らは、トンガの伝統的な慣習と深く関係している。本来、伝統的なチーフと庶民の関係は、チーフは自己の所有地を親族や配下の家族に割当て、庶民は所属するチーフの土地に居住・耕作し、租税を支払う義務（ファトンギア）を負った。庶民はチーフの命令に服従しなければならず、ときにチーフは庶民の土地を取りあげることができたという（Campbell 2001,Gifford 1929:pp174-175）。そして、親族集団を構成する各家族の家長は、婚姻、土地の分配、労働についての決定をチーフに求めたといわれている。現在、各村に存在するチーフは、儀礼や国事の際に庶民を先導し、王族や貴族の来島時には、政治的な体現者となる。

Fig.2. The administrative districts in Tonga.



Note: There are five districts; from the north, (1) Niuatoputapu island and Niuafoou island, (2) Vavau islands, (3) Haapai islands, (4) Tongatapu island, (5) Eua island.

エウア島の人民代表選挙

エウア島の状況

エウア島の人口は、トンガタプ島の約20分の1にあたる4,934人で、世帯数は863軒が15カ村に分かれて居住する（Tonga Government 1996）。この島の人口増加は著しく、1892年当時、トンガの総人口が19,193人であったのに対してエウア島の人口は353人であった（英国議会資料2001）。つまり、エウア島の人口は約100年間で14倍に増加した。

エウア島の土地は、王族地、貴族地、政府地の3つに区分され、全15村うち2村は王族地に、残りの13村は政府地にある。政府地の13村のうち9村は、1950年代の火山噴火で強制移住となった王国の北部のニウアフォオウ島の人々の村である。また1960年代にはエウア島に王の屋敷（パレス）が建設され、王と共にトンガタプ島から来島した人々の村1村が新たに開設されている。これら15あるすべての村にはそれぞれ村長（オフィサ・コロ）が置かれている。

移住者を含むエウア島では、1950年以前からの居住者とその村を「エウア」と呼び、ニウアフォオウ島の人々とその村を「ニウア」と呼んでいる。これが現在の島北部の「エウア」地区と南部の「ニウア」地区という、行政上の島の区分となっている。これに対して、ニウアフォオウ島からの移住者は、自分たちとその住む村を「エウア・フォオウ」（新エウア）と呼び、「ニウア」とは呼ばない。一方、以前からの居住者とその村を「エウア・モトゥア」（古いエウア、旧エウア）と呼んでいる。こうした呼称の微妙なズレは、移住者と旧住民の意識の差だけでなく、土地の割当てをめぐる先住者と後来者の確執を反映する。各地区には1名の地区長（プレ・ファカヴァヘ）が任命されている。

国会でエウア島の代表を務めるのは、庶民選出のエウア島出身の人民代表議員と貴族選挙でトンガタプ島で第四位となった貴族である。尚、エウア島にある貴族地の保有者の貴族W氏ではない。エウア島には知事はおかれず政府代表（ファカフォフォンガ・プレアンガ）が1名配置されている。政府代表は知事でないため内閣の構成員ではない。

各村のチーフ（少なくともエウア島の「エウア」地区の村々において）は、王族との親族関係にあり、「ニウア」地区におけるその関係は、出身地（移住以前）の島においてのみ認められる（Table 1）。これに対して、トーキング・チーフ（チーフの従者）のタイトルは、トゥポウ1世の時代以降に、新たに王が新設と授与を行っている。彼らは、王族との親族関係も血縁関係を持たないことが確認された。村にはこの他に、チーフの血縁者を意味するトト・エイキと呼ばれる人々が存在する（Table 2）。彼らは、王族や貴族がエウア島に来島する時の実質的な世話役である。つまり、王は王族や貴族との親族関係にある「村付き」のチーフを各村に配置することで、地方権力の組替えと王国の統治体制の強化を図ったのである。

Table 1. The Chiefs and Talking Chiefs in Eua island.

Village	Name of Chief	Marriage with royal family	Name of Talking Chief	Marriage with royal family
Eua District				
Ho	*Taka-i-Houma*	○	*Talihau*	-
Oh	*Manumua*	○	*Siakumi*	-
			Matangi-tonga	-
	Hafoka	○	*Mau*	-
Tu	-	○	*Fotu-a-ika-taale*	-
Pa	*Vakauta*	○	-	-
Ha	*Tupouata*	○	*Halahala*	-
Ta	*Maafu*	○	*Tafakula*	-
Niua District				
An	-	*	*Fotutata*	-
Fu	*Langiloloa*	*	*Mauo*	-
Sa	*Houmafeo*	*	*Taanga*	-
Ei	-	*	*Maea*	-
Ma	*Tuia*	*	*Tohekakala*	-
Mu	*Takafua*	*	*Tangaloa*	-
To	*Maluamaka*	*	*Filiai*	-
Fa	*Pongi*	*	*Katoa*	-
Pe	*Lihau*	*	*Masila*	-

Notes: 1. Each name (Chief and Talking Chief) holds a titleholder.
2. (*) means it could not confirm at this research.
3. The name of chiefs and talking chiefs at Niua district exist also at Niuafo'ou island.
4. ○ means check mark of applicable items.

Table 2. *Toto-eiki* (person who related with royal family) in "Oh" Village.

Name	sex	Marriage partner	Relationship with royal family
T.H.	man	commoner（wife）	maternal
F.U.	woman	commoner（husband）	paternal
T.U.	man	single	paternal
M.F.	woman	chief（husband）	illegitimate child

エウア島の人民代表選挙

人民代表の立候補者になるためには、一人 200 パアンガを登録料として政府に支払わなければならない。2001 年の人民代表議員選挙では、受付開始の時点で 10 人の立候補者があると伝えられた。しかし、最終的に登録料 200 パアンガを支払って、正式な候補者になったのは、現職の A 氏を含む４名であった（Table 3）。この選挙の立候補者４人の出身と居住地は表の通りである。

Table 3. The election of the People's Representative in Eua Island. (March 2001)

Candidate		A	B	C	D	
Village (comes from)		Oh	Outside Eua island	An	Sa	
Residence		Oh	Oh	An	Sa	
Church (belongs to)		FCT	*	FCT	FCT	
The polls	Village	Vote				Total
Oh	Oh、Ho、Ta	280	14	215	35	544
An	Pa、Tu、An、Fu	108	127	170	83	488
Mu	Mu、Pe、Ma、To、Sa、Ei、Fa、Ha	292	35	93	133	553
Total		680	176	478	251	1,585

Note: 1. ▒ means Eua District.
2. (*) means Candidate B does not belong to the Free Wesleyan Church.
3. Votes do not include the residences outside Eua Island.
4. FCT means "the Free Church of Tonga".

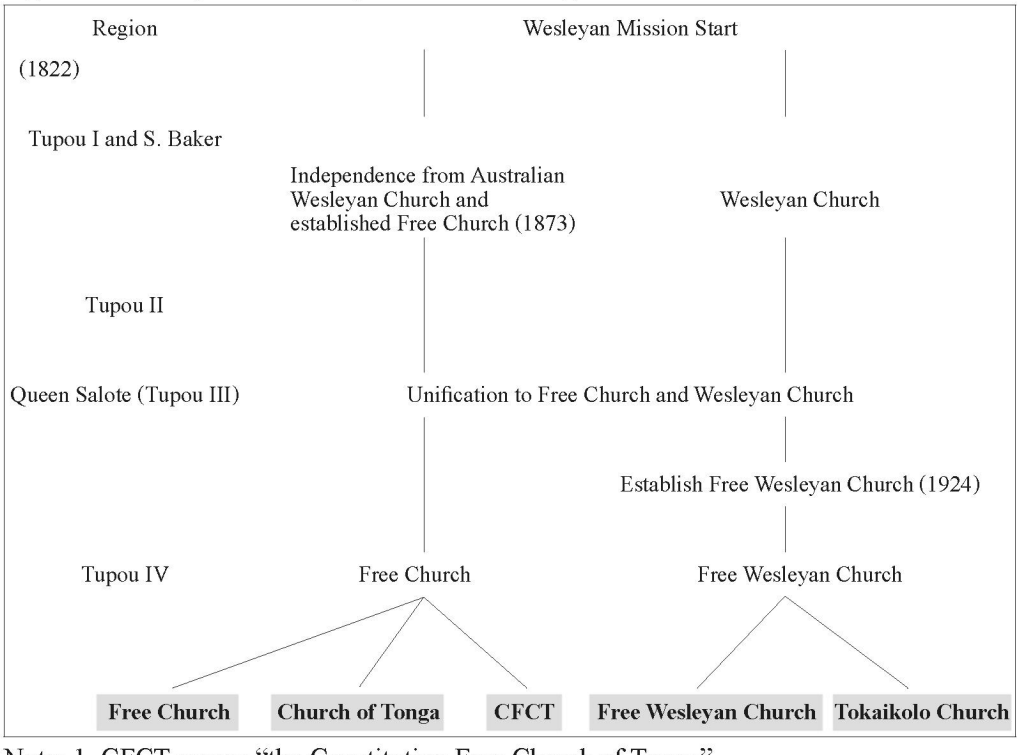
A、C、D 氏が共に出身村と現在の居住地が一致しているのに対して、B 氏は出身が他島である上に現在の居住地の滞在年数は３年以下であった。

人民代表選挙の投票日の前夜（この日は貴族議員選挙が行われた）、エウア島では、選挙の立候補者が主催するカヴァ飲みの会（ファイカヴァ）が、ニウア地区 An 村の FWC 教会のホールで開かれた。夜８時からのファイカヴァの開催に関して、事前に島民に参加を呼びかけるラジオ放送が行われた。カヴァの飲み会には、地区や村を問わず、島の男性が参加した。

一方、村に残った女性の間では、ある婦人は、「A 氏以外は、ニウア（地区）の人間だから再任されるに決まっている。他には考えられない」と語り、またある男性は、「A 氏は自分の親戚にあたるから再選される」といった。またある夫人たちは、立候補者 B 氏に対して「議員選挙に立候補したのは、外国（アメリカ、ニュージーランド、オーストラリア）行きのビザ（渡航許可証）が欲しいからだ」といった。渡航ビザが無ければトンガでは国外へは渡航できない。実際、議員になると外国への渡航ビザは、通常申請するよりも迅速に、容易に手に入る。B 氏は労働省の公務員で、独身の 20 代の青年であった。島では非常に限られた現金収入の職場で好待遇にある公務員は、人々の羨望の的であるが、20 代の若者の立候補にほとんどの村人は関心を示さなかった。

投票日、夕方４時で締め切られた投票は、エウア島の裁判所内で即日開票された。この選挙結果から次の二点が指摘できる。第一に、有権者の票が親族関係に傾斜している。例えば、A 氏の親戚にあたる Oh 村の L 家では、有権者の５人全員が A 氏に投票した。A 氏の当選について、「立候補者 A 氏の母が、（エウア地区の）Ha 村の出身だから、（ニウア地区の）Mu 村の投票所で行われても、その得票数が最も多かった」と満足そうに語った。また、ニウア地区の An 村の投票会場で立候補者 A 氏の得票数が３位で、立候補者 C 氏が最多の得票数を得たことを Oh 村の人々は、「An 村に立候補者 C 氏の家があるからだ」とひどく残念そうに語った。

Fig. 3. The history of the Wesleyan Church in Tonga.



Note: 1. CFCT means “the Constitution Free Church of Tonga”.
2. Tokaikolo Church is Wesleyan.

第二に、立候補者（不明なB氏を除く）の所属教会は自由教会（Free Church of Tonga, 以下FCT）であった。歴代のエウア島選出の人民代業議員の多くは、FCTに所属していた。1822年、ウェズリアン教会の布教開始後、1873年になるとトゥポウ１世は、オーストラリアの支部であったトンガのウェズリアン教会を独立させ自由教会（Free Church of Tonga, 以下FCT）を設立した。しかし、サローテ女王（トゥポウ３世）の成婚を機に、ウェズリアン教会へ改宗すると、1924年には教会の統合が行われ、自由ウェズリアン教会（Free Wesleyan Church of Tonga, 以下FWC）が創設された（Fig. 3）。こうして、それまで王の教会であった自由教会の信徒たちは、次々とFWCに改宗し、王にとっての教会はFCTからFWCへ移行した。FWCへ移行した人々自由教会の信徒と、それまで弾圧されてきたウェズリアン教会の信徒は、FWCが王の教会であると信じて疑わなかった。一方で、FWCへ移行しなかった人々（そのまま自由教会に残った人々）は、少数派となった。ここにトゥポウ１世からサローテ女王が成婚するまで続いたFCTの全盛期は終わりを迎えた。1920年代以降、FCTの弱体化は進んだ[8]。

エウア島選出の人民代表議員は、庶民の中から庶民が選ぶ人民代表のことで、その役割は、庶民の意見を第一に反映すること、政府に対しての庶民の不平不満の意見の

代弁者に他ならない。つまり、王の教会で、信徒数が最多のFWCの信徒の中から立候補者が現れないこと。そして、FCTの信徒が積極的に立候補する状況は、人民代表議員という立場が宗教的な意味を反映しているといえる。

エウア島の人々は、人民代表議員の発言が、たとえ一般的に我々が民主的であると考えるものであっても、王や貴族に対して不適切で批判的な発言に対しては、容赦なくその議員に講義を行う。例えば、2001年6月の国会で、エウア島代表の人民代表議員A氏が、島の居住地域の周辺で、化学薬品を使うカボチャ栽培を法律で規制すべきだと提案した。A氏は同様の化学薬品の使用で過去に数人が亡くなっているという事実を出しながら、エウア島のHa村とOh村がその対象地域であることを名指した。これは明らかに島のカボチャの輸出業者、T業者[9]の代表者、王妃が始めようとしているパレスでのカボチャ栽培に対する村人の苦情を代弁する形となった。しかし、この発言に対する島民の反応は二分した。それは、「ですぎたまでだ」という冷ややかな反応と、生活に関わる状況改善を願う人々の評価を得たことである。前者の反応を示した人々の多くは、王の教会に所属するFWC信徒で、後者はその他の宗派に属する人々であった。

村長・地区長選挙

先にあげた人民代表選挙と比較するために、同時期に行われた村長・地区長選挙を検討する。

村長選挙とその特徴

エウア島に15ある村には、任期3年の村長がおかれている。2001年3月に行われた村長選挙では、15村の村長を選出が行われた。村長は、地区長と共に1965年以降、立候補者も有権者も庶民の中から一般選挙で選出されるようになった。

2001年のエウア島の村長選挙の立候補者は、15村のうち8村（エウア地区で3村、ニウア地区で5村）が前任者の他に新たな立候補者がなく、無投票で再選された（Table 4）。選挙が行われた7村（エウア地区で3村、ニウア地区で4村）で、このうち再選されたのは3村（Ha、Fu、Pe村）、前任者退任による新人選挙が行われたのは3村（Tu、Sa、An村）、前任者が敗れ交代したのは1村（Ho村）であった。この選挙結果から、再選された村長は15村のうち10村に及び、立候補者が投票という手段を使わなくても、多数の村で既に村人の了解を得ていたといえる。

村人の間では、村長は政府の連絡事項の伝達者、村内の世話係という位置づけが共有されている。このため村長に立候補する者は、政府からの小額の給与支給を得られる反面、村の雑事を積極的に行わなければならない。

では、村長の統制力はあるのだろうか。村長は1875年憲法以降のトンガ政府の成立とそれに伴う自治組織の運営者として設置されたで役職である。世話係に留まる村長は、首相が任命するとはいえ、村のチーフとトーキング・チーフほど権威を持たない。村人は、村長よりも村内に存在するチーフとトーキング・チーフに村の権威の所在があると感じており、そのためチーフやトーキング・チーフが行う行動規定を優先する。

Table 4: The election of town (village) officer in 2001.

	Village	Candidate	Result
Eua District	Ho	S.F (incumbent) T.L. A.K.	T.L.
	Ta	S.V. (incumbent)	returned
	Oh	T.P. (incumbent)	returned
	Tu	S.K. H.A.	S.K.
	Pa	S.L. (incumbent)	returned
	Ha	M.H. (incumbent) T.M.	returned
Niua District	Mu	S.F. (incumbent)*	returned
	Sa	M.L. S.F.	M.L.
	Fa	S.T. (incumbent)	returned
	Ei	M.L. (incumbent)	returned
	Ma	T.F. (incumbent)	returned
	Fu	P.H. V.M. (incumbent)	returned
	To	S.F. (incumbent)	returned
	An	S.S. L.S. S.L.	S.S.
	Pe	F.S. (incumbent) L.T.	returned

Note: 1. (*) means the candidate originally appointed by Prime Minister.

例えば、各村で開かれる村会議に注目した場合、政府代表（１名）、地区長（２名）、村長（15 名）は、毎月末に連絡会をもち、そこで政府の決定事項が伝えられる。それはさらに毎月第１月曜日の早朝に各村で開かれる「村会議（フォノ）」を通じて王族、貴族、庶民からなる村人に伝えられる。村会議の成り立ちは古く、かつては高位のチーフ（大首長）の命令が､最初に招集された低位のチーフ（小首長）に伝えられ、次いでチーフが配下にある村人を召集して伝達した。それは上意下達の機関として大きな役割を担っていた（Martin 1817: p230, Ferdon 1987: p36, 青柳 1991: p141）。しかし、トゥポウ１世王によるチーフ社会の変革は、村会議でのチーフの役割を変化させ、政府からの連絡は地区長を経て村長に伝えられ、村長は村会議においてもそれを庶民に伝達するようになった。現在の村会議は、村人すべてが参加権をもつという点で本来の村会議を継承しているが、村長は村人に対する拘束力をもたないため、彼らの村会議への参加が少なくなっている。例えば、人口約 800 人の村の場合、毎回の参加者は 20 人程度にすぎない。しかも村会議を通して伝えられる事柄を実施するのは、村長とその親族に限られている。こうした村会議への関心のなさ、とりわけ政府地の村に顕著なこの現象は、村レベルでの政治への無関心さを表すものとみられる。

地区長選挙とその特徴

2001 年村長選挙と同時にトンガ全土で行われた地区長選挙は、エウア島のエウア地区とニウア地区の各地区長が選出された。

表５と６は、両地区長選挙の候補者と得票数結果である。有権者数は、前回３年前の 1999 年に行われた選挙の際に登録された有権者数（男性 16 歳以上、女性 21 歳）である。

エウア地区の場合、今回の選挙で実際に投票を行ったのは、その 37 パーセントの 758 人であった。有権者の総数 2, 043 人に対して、これは決して高い投票率であるとはいえない。投票者の大半は、30 歳代以上の男女で、若者の姿を投票所で見かけることはほとんどできなかった。

Table 5: The election of Eua District Officer

Candidate	F.H (incumbent)	O.M	H.H	Total vote	Voters (*)
Village (comes from)	Oh	Oh	Oh		
Church (belongs to)	LDS	FWC	TC		
The Polls					
Ho	43	40	29	112	252
Ta	17	20	—	37	89
Oh	175	139	5	319	1,031
Tu	34	31	7	72	125
Pa	39	45	17	101	195
Ha	84	21	12	117	351
Total votes	392	296	70	758	2,043

Note: 1. LDS (Latter Day Saints), FWC (Free Wesleyan Church), TC (Wesleyan Tokaikolo Church)
2. (*) means the registration number of the 1999 People's Representative. Men over 16 years old, women over 21years old.

エウア地区の地区長選挙（Table 5）の場合、立候補者は全員が Oh 村に居住している。地区長に再選された F.H. 氏の再選要因として次の三点を指摘できる。第一に、立候補者 F.H. 氏への村人の信頼が票に繋がっていることである。F.H. 氏は、過去３期（９年）に渡ってエウア地区長を務めてきた実績がある。さらに、F.H. 氏の発言は常に冷静で論理的な人物で、毎月各村で開かれる村会議や寄付集めの場では、参加者の意見の取りまとめを行っている。

第二に、モルモン教徒の F.H. 氏に反 FWC 教会の信徒（モルモン教徒、FCT 教徒、トンガ教徒）の票が集中したためである。村人の半数がモルモン信徒の Ha 村では F.H. 氏への投票数が圧倒的に際立っている。エウア島およびトンガタプ島で最多の信徒数を占める FWC 教会に所属し教会の世話係も務める O.M. 氏の得票数は、全体の 39 パーセントにあたる 296 票で、F.H. 氏の 392 票には及ばなかった。Oh 村では、FWC 信徒の O.M. 氏と FWC 系トウカイコロ教徒の候補者 H.H. 氏の合計得票が 144

票であるのに対して、F.H. 氏は 175 票を得た。

第三に、エウア地区の投票所の中でも唯一 F.H. 氏が 1 位を獲得できなかった Ta 村は、ほとんどの村人がFWC信徒であることと関係する。注意深くその票割りをみると、FWC 信徒の立候補者の圧勝と思われた村では、以外にも Ta 村の有権者 89 人のうち、実際に投票に参加した 37 票のうちの F.H. 氏（モルモン教徒）が 17 票を獲得している。これは Ta 村に居住する FWC 信徒の村人が、所属宗派よりも F.H. 氏自身に評価を下したことを意味している訳ではない。Ta 村の F.H. 氏の親族が、所属宗派よりも親族関係をもつ F.H. 氏に投票したのである。つまり、参加した有権者の関心は、所属宗派による優先よりも立候補者の親族関係を優先しているといえる。このことは、次ぎにあげるニウア地区の選挙結果からも裏付けられる。

Table 6. The election for officers of Niua District.

Candidate	S.T (incumbent)	P.T	V.N	M.F	Total votes
Village (come from)	Fa	Ma	Fu	To	
Church (belong to)	FWC	FWC	FWC	FWC	
The Polls					
Mu	17	9	1	26	53
Sa	24	18	4	—	46
Fa	78	9	1	1	89
Ei	3	20	40	3	66
Ma	19	56	5	1	81
Fu	3	4	60	1	68
To	—	5	—	49	54
An	15	20	50	26	111
Pe	16	12	3	42	73
Total votes	175	153	164	149	641

Note: 1. FWC means “the Free Wesleyan Church”.

ニウア地区の地区長選挙（Table 6）の場合、立候補者の全ては FWC 教徒のため宗派による得票差は生じていない。例えば、立候補者 M.F. 氏は To 村の出身で、To 村の有権者の 9 割は彼に投票している。従って、最終的な立候補者の得票数は、出身村の人口規模に比例する。有権者は自分の所属教会の候補者がいない場合、同村出身村と親族関係者に票を投じている。ニウア地区で最多の投票率は An 村（111 票）で、各候補者への票はほぼ同じ割合であったあった。これは An 村からの立候補者がなかったためである。Pe 村の場合、Pe 村出身の立候補者はおらず、隣の To 村出身の M.F. 氏に 57 パーセントの村の得票数を得た。これは隣接する Pe 村と To 村の世帯の半数が、互いの村に親族関係を持ち、それが立候補者の得票数に影響した。これは Ei、Sa、Mu 村の場合も状況が類似する。Fa 村と To 村に隣接する Mu 村は、これら

両村出身の立候補者への支持が二分された。

ここで興味深いのは、現職で再選を目指すS.T. 氏への村人の評価があった。彼は村長も兼任しており、村一番の豪華な家を築くほど換金作物で大きな利益を出していた。また、カヴァの現金化の過程で必要なカヴァの製粉機械を唯一所有していた。村人は、S.T. 氏に金を支払って、カヴァの製粉を行った。日頃から村人から広く利益を得て、さらに村長兼地区長の役職とそれに支払われる給料を一人で掌握するS.T. 氏を快く思わない人々の不満が彼への得票数に表れた。つまり、ニウア地区の場合でも、候補者の出身村と親族関係がその得票数に大きく影響をしている。

考察

トンガ社会の全体に存在する、王と政府によって導入された近代的な政治システム（政府代表、村長、地区長、人民代表議員）と伝統的なチーフ（村付きのチーフとトーキング・チーフ）という並立する二重構造は、共に王国の権力構造の持続のために、王によって組み替えられたものである。エウア島の庶民生活における民主主義の介在は、ラクラウ（1985）が適応型の政治と指摘するような、トンガ的（型）な介在の仕方である。そこでの人々の関心とエネルギーは、ローカルな親族と教会へ向けられている（森本 2005）。

トンガに関する人類学の先行研究では、エウア島での民主化運動の支持者は1993年の選挙までおらず、1999年の選挙で2, 194人の有権者のうち民主化の支持者は76人に過ぎなかったと報告されている（Campbell 1999: p268）。しかし、本稿の事例の投票結果からは、島の人々は人民代表議員に民主化への改革を強く求めて票を投じているのではなく、むしろ親族関係や同一村の出身者といった関係に強く傾斜している。これは、先行研究で言われている、人々の民主化に対する倦怠感とは別のトンガ独自の民主主義のあり方として十分に議論される余地を残している。

政治における象徴の持つ意味は大きい。それは、政治が権力や組織といった、見えざるものを可視化するからである。当該社会の政治は、歴史的な発展過程において、経験による自己解釈をしながら、象徴体系を内部から発生させてきた。例えば近代国家の成立にともなうナショナリズム、民族の自己意識（エスニック・アイデンティー）などがそうである。神川（1961: p52）は、政治を「物理的強制的に担保されつつも、色濃く心理的強制に依拠し、絶えず分化していく利害の対立を何らかのフィクションによって統合・同質化していく機能」と指摘する。本稿でとりあげたトンガ王国エウア島における３つの選挙で選出された３つの役職（人民代表（１名）、地区長（２名）、村長（15名））は、いずれも王と政府によって導入された近代的な政治システムの象徴である。

王（王族）、貴族、庶民からなるトンガ社会における、近代的な政治システムの象徴（者）を選ぶ３つの選挙を扱った本稿の視点は、庶民にとっての民主化の介在の仕方を問うものであった。有権者の庶民は、同じく庶民出身の立候補者の選出に際して、村長選挙では親族集団と宗派が重視され、地区長選挙では他村と宗派に対する競争意

識が働き、人民代表議員選挙では親族関係が優先された。一方で、立候補者にとっては、村長・地区長選挙は、村付きのチーフのようには威厳を持たず、役職を得ることのメリットはほとんどない。しかし、村長が不在という事態を回避するために、チーフたちが村人の中から、村長という役職をかってでる者を後押しするのである。これに対して、人民代表議員の立候補者には、教会宗派の明確な目的意識が背景にあることが認められた。それは、エウア島民を代表する人民代表議員は、民主化という名のもとの王政への批判を行う象徴であると言い換えることができる。エウア島の場合、人民代表議員の立候補者は、「人民代表議員＝民主化＝反 FWC（自由ウェズリアン教会）」という、宗派的対立を背景とした構図が成立している。このため、島民の民主化への関心が、必ずしも当選した人民代表議員によって代弁されている訳ではないし、島民の側もそれを承知しているのである。

先行研究で指摘される庶民の民主化への倦怠感は、トンガ的な民主主義を展開する庶民の指導者としてのリーダーシップと説得力の不在が原因であると考えられる。本来、民主主義のリーダーとは、一定目標をかかげ、人々に連帯感を与え、協力をかちとる共同目的と課題を持つ。しかし、エウア島の人民代表立候補者に、このようなリーダーシップは残念ながら認められない。従って、彼らの行う政治的指導が、本来多義的であいまいになる性質[10]を持っていても、村人への説得力に繋がらないのである。

最後に、筆者の今後の課題として、今回とりあげた３つの選挙は、王国における庶民レベルの民主化の萌芽に繋がる重要な視点である。従って、今後もその動向を長期的に調査し、分析と考察を行ってゆきたいと考えている。

注

1）この場合の「庶民」とは、トンガの階層社会における平民層の人々をさしている。トンガ語では *tu'a*、英語では commoner にあたる。先行研究では「平民」という言葉で使用されている。しかし、本論では選挙における投票者という視点から、あえて「庶民」という言葉を用いた。

2）筆者は博士論文の調査のために、2000 年 9 月から 2002 年 12 月までトンガに滞在して現地調査を行った。本稿で提示したデータに加えて調査村の全世帯を対象に家系図、収支、農業に関する調査を行っている。

3）トンガ王国は、西経 174 ～ 176 度、南緯 16 ～ 22 度の範囲にあり、そこに点在する 150 以上の島々からなる。調査地のエウア島（Eua）は、首都があるトンガタプ島の南東およそ 40 キロに位置する。その面積は 87.44 平方キロメートルで、トンガタプ島の約 7 分の 1 に過ぎない。火山島であるエウア島には、トンガの島々の中でも自然植生が広く残る島であるといわれ（Mueller-Dombois and Fosberg 1998）、島の南北に緩やかに広がる山には 1992 年に国立公園が開設されている。島の施設には空港と港湾のほか、警察・病院・刑務所・学校（小学校は政府系、中学校と高校は政府系と教会系）・農業省事務所（２箇所）・電話局・

銀行（政府系と民間）・郵便局がある。土地はトンガ全土と同様に、王族地、貴族地、政府地の３つに区分される。王族地と貴族地はトフィアと呼ばれる。エウア島の面積の３分の１をトフィアが占め、３分の２は政府地にあたる。エウア島のトフィアに、王、王族、貴族は住んでおらず、その代わりにパレスとよばれる王族専用の宿泊施設が存在し、首都から来島する王および王族の滞在用に使用される。貴族地の広さは1,000エーカーに及び、その保有者で貴族のW氏は首都に住み、現在この土地では、ノーペレW氏の親族や友人にあたる有力者が換金作物の栽培を行っている。この土地は内乱を鎮圧した功績としてサローテ女王の時代にノーペレW氏の父に与えられた。それが正方形をなすのは1960年代に土地測量省の大臣が境界確定にあたって地図上でこの形にしたためである。

4）北部より①ニウアトプタプ島とニウアフォオウ島、②ヴァヴァウ諸島、③ハアパイ諸島、④トンガタプ島、⑤エウア島の５行政区である（図２）。現在この職にあるＴ氏は、警察官を経て刑事裁判官となった。

5）「ポピュリズム」とは、人々の怨恨、嫉妬を刺激して、その支持に乗って、より恵まれた階層を攻撃するという形をとり、参加民主主義、草の根の声を政治に直接反映する形式をとる。

6）「適応型の政治体系」（ラクラウ 1985: p143）とは、アプター（1968:32）を引用したもので、それによると民主主義的諸制度が、大部分の近代化過程にある社会で、急激な変形作用を受けているという状況を認識しても、満足のゆく解答はない。それは広い範囲に渡って存在している適応型の（accommodated）政治体系であるゆえだと述べている。

7）「歴史的もつれあい」（Thomas 1991, 杉島 1999）とは、トーマスでいえば植民地主義の分析において、欧米勢力と現地の権力構造との「もつれあい」を分析することであり、杉島（1999: p27）は「中核」諸国起源の規則や信念と「辺境」の地域社会の規則や信念が多様な解釈を介してせめぎあい、からみあう過程と定義した。現在目にしている現象を説明し解釈を行う際には、その議論される事象が西欧の概念では十分に説明されることは不可能であり、当該社会での歴史的もつれあいを考慮に入れて分析する必要がある。

8）1928年には一部の信徒が、FCTから新たに「トンガ教会」（*Tonga Houeiki*、Church of Tonga: CT）」を組織し分離した。また1984年には「立憲自由教会（*Siasi Kolisitutone*、Constitution Free Church of Tonga: CFCT）」が組織され更に分裂が進んだ。

9）エウア島にカボチャの輸出業者は３社（T業者、H業者、農民組合）あり、いずれも首都の輸出業者のエウア島支部にあたる。

10）永井（1961: p71）は、民主的指導における目標価値の提示が多義的であいまいとなる理由は、民主的指導における目標価値が、各個人の自己目標や課題といった目標価値を含み、高次の立場から正統づける包括的で一般的なものにならざ

るを得ないからであると指摘している。

［謝辞］本稿は、筆者がトンガ政府の調査許可を得て、2000 年 9 月から 2002 年 12 月まで行った調査結果の一部である。調査は、財団法人大和銀行アジア・オセアニア財団の助成により可能となった。トンガ政府と財団に記してお礼をささげたい。

参考文献

ADSETT, N. J. 1989. Law of Tonga: 1988 Revised Edition. The Eastern Press, Berkshire.

CAMPBELL, I. C. 1992a. Islands Kingdom: Tongan Ancient and Modern. Canterbury University Press, Christchurch.

CAMPBELL, I. C.1992b. “The Emergence of Parliamentary Politics in Oceania.” Pacific Studies, 15(1): 77-97.

CAMPBELL, I. C.1994. “The Doctrine of Accountability and the Unchanging Locus of Power in Tonga,” The Journal of Pacific History, 29(1): 81-94.

CAMPBELL, I. C. 1999. “Democracy Movement and the 1999 Tongan Election,” The Journal of Pacific History, 34(3): 265-222.

CAMPBELL, I. C. 2001. Island kingdom: Tonga ancient and modern. 2nd rev. ed. Christchurch: Canterbury University Press.

CHAPPELL, D. A. 1999. “Transnationalism in Central Oceanian Politics: A Dialectic and Nationhood?” The Journal of Polynesian Society, 108(3): 277-303.

FERDON, E. N. 1987. Early Tonga: as the explorers saw it, 1616-1810. University of Arizona Press, Tucson.

GIFFORD, E. W. 1929. Tongan society. Bernice P. Bishop Museum, Honolulu.

MARTIN, J. 1817. An account of the natives of the Tonga Islands, in the South Pacific Ocean: with an original grammar and vocabulary of their language / compiled and arranged from the extensive communications of William Mariner. Printed for the author, and sold by John Murray, London.

MUELLER-DOMBOIS, D. and FOSBERG, F. R. 1998. Vegetation of the tropical Pacific islands. Springer, New York.

THOMAS, N. 1991. Entangled objects: exchange, material culture, and colonialism in the Pacific Harvard University Press, Cambridge.

TONGA GOVERNMENT 1996. Census 1996, Government Printer, Nuku’alofa.

アプター，D. E. 1968.「近代化の政治学（上）」内山秀夫訳，未来社 , 東京.

青柳まちこ 1991.「トンガの文化と社会」，三一書房，東京.

英国議会資料 2001. 京セラ文庫「英国議会資料」資料集 . 国立民族学博物館地域研究企画交流センター , 吹田 .

神川信彦 1961. 政治からみた人間 : 1. 政治的人間像「人間と政治」（丸山真男編），1-36，有斐閣，東京.

ラクラウ，エルネスト（横超英一監訳）1985.「資本主義・ファシズム・ポピュリズム：マルクス主義理論における政治とイデオロギー」拓殖書房，東京.

丸山真男編 1961.「人間と政治」，有斐閣，東京.

森本利恵 2005. 教会に傾斜する庶民：トンガ王国エウア島の事例から「総研大文化科学研究」創刊号. 56–68, 総合研究大学院大学, 神奈川.

森脇俊雅 他 1961.「比較・選挙政治：90 年代における先進 5 ヶ国の選挙」, ミネルヴァ書房, 京都.

永井陽之助 1961. 政治からみた人間：2. イデオロギーと組織象徴「人間と政治」(丸山真男 編), 37-78, 有斐閣, 東京.

須藤健一 2000. トンガ王国の民主化運動「オセアニアの国家統合と国民文化」JCAS 連携研究成果報告 2. 国立民族学博物館, 大阪.

杉島敬志 1999.「土地所有の政治史：人類学的視点」風響社, 東京.